

ずっと、ここで暮らしたい ～宅地割り と住宅の配置操作による新しい分譲住宅地の提案～

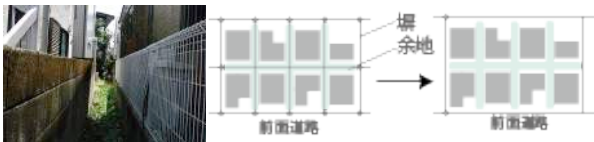
1150019 梅村 沙矢

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. はじめに

現在の、分譲住宅地における宅地割りや住宅の配置は、均質化しており、住宅街の単純化が進んでいる。それに伴い、家々が狭い敷地に密集した分譲住宅地を多く見受けられるようになった。

住居と住居の間隙は、塀をはさみ暗く、人が入れないような閉鎖的空間になっている。(写真:住宅と住宅の間隙) さらに、敷地における余地部も均質になり、無機質な住宅の配置はひとつひとつの家を孤立させ、同時に住人も孤立させているように感じる。



(写真、図1: 塀の有無における住宅と余地の関係図)

2. 目的

①対象敷地において、新しい宅地割り と住宅の配置により、余地が生まれ集まることによって開放的空間をつくり出す。

②外から見て興味を持ちやすい住宅地の計画。

③開放的空間を各住宅からの視線で共有することにより、近隣住民とのコミュニケーションが自然に生まれる仕組みを提案する。

④さらに塀を、プライバシーを守りながら生活の一部とするような計画を行う。

3. 敷地概要

対象敷地は高知県高知市朝倉である。付近には、JR 朝倉駅や路面電車の朝倉駅前駅、朝倉駅がある。対象敷地南側には国道 38 号線が存在し、鉄道、自動車共に対象敷地へアクセスが容易である。敷地の 1km 範囲は、小学校、中学校、高校、大学、また、

スーパーマーケットや家電量販店などが集まり、生活の中心地となっている。敷地北側にある線路の奥には、田畑や山が広がる。(写真下: 対象敷地上空写真)



写真左、右: 対象敷地南側写真。敷地南側には用水路が流れており、緑道が広がる。

4. 計画方針

4. 1 宅地割り計画



①40m×20m の長方形を

②駐車場を決める

不規則に 5 つの敷地に区切る



③長方形を敷地に当てはめる

④駐車場からの動線を確保する。

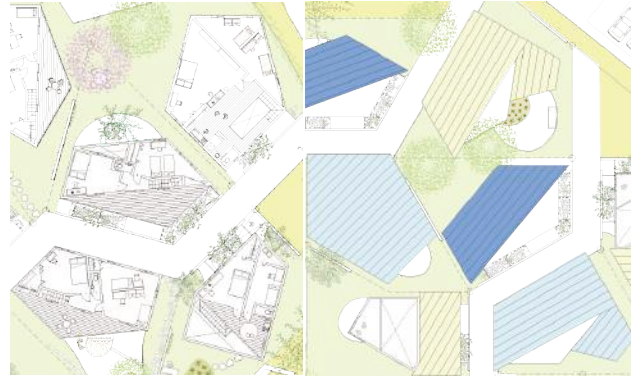
図2: 宅地割りのダイアグラム

4. 2 住宅配置計画

余地が隣り合うように接道する箇所に住宅の塀を配置する。道は接道した住宅により視線が通りにくくなるので、住宅の一部をピロティとし、道の先まで見通しが良くなるようにする。



(図3：余地・開放的空間)

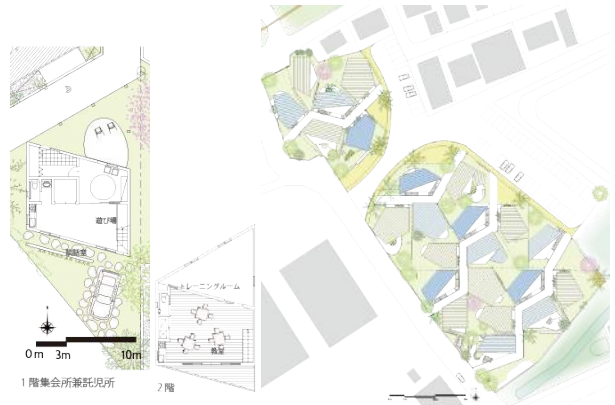


1m 5m 10m N
図面左：2階平面図、右：3階平面図



(写真左：余地部が集まった様子。写真右：接道した住宅のピロティ部分から屈折した道の先が見渡せる。)

施設計画としては、公園の他に、集会所兼託児施設を設ける。2階は、習い事スペースになっており住民のコミュニティスペースの場となる。託児所は、親の帰宅が遅い等、外出時に利用できる。



(写真：宅児所ピロティの様子、配置図兼屋根伏せ図)

4. 3 住宅・施設の計画

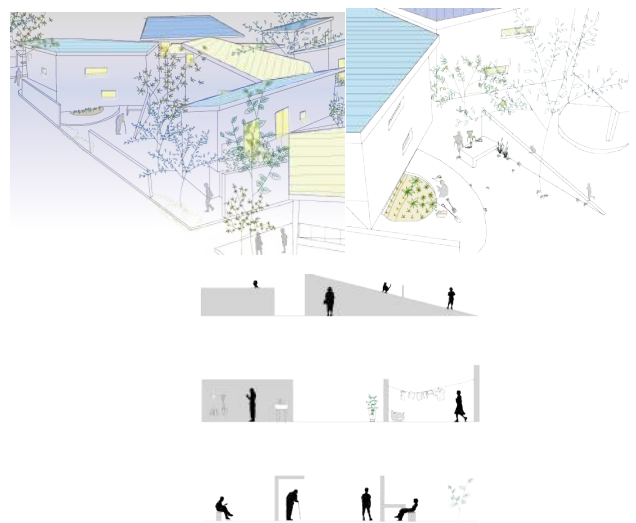
4タイプの家族に合わせたユニットを配置する。余地は、庭としての用途だけではなく、増築スペースとして活用も出来る。



1m 5m 10m N
1階平面図

住宅と接道面の耐力壁の間は庭になり、壁面は住宅南側の開口への日差しを和らげる効果をもつ。また、庭に植えられた植物は街路樹の役目を果たす。

4. 4 塀の利用



塀の高さを変え、景色を変化させ距離を置く。